

津軽情っ張り大太鼓保存後援会

役員

会長 三上 千春(弘前観光コンベンション協会会長)

副会長 北村 裕志(六花酒造(株)代表取締役社長) 理事 大中 実(弘果 弘前中央青果(株)常務取締役)
南 直之進(株)南建設代表取締役社長) 桜庭 淳(弘前市物産協会事務局長)
下山 清司(北星交通(株)代表取締役会長) 笹村 眞(弘前地区電気工事業協同組合常務理事)
三上 知見(株)陸奥新報社代表取締役社長) 田中 誠一(津軽情っ張り大太鼓保存後援会)
榎山 和大(津軽藩ねぶた村助役)

監事 大川 誠(株)大川地建代表取締役社長) 椋澤 睦子(弘前商工会議所女性会会長)
土岐 俊二(弘前商工会議所専務理事) 奈良 第司(弘前商工会議所青年部会長)
小山田 允紀(弘前青年会議所理事長)

会員

(株)青森銀行 弘前支店
青森県図書教育用品(株)
青い森信用金庫弘前駅前支店
アップルウェブ(株)
(株)アップルコミュニケーションズ
(株)アップルランド南田温泉
(一社)青森県タクシー協会弘前支部
相坂 摩弥
赤羽 翔
石場旅館
石山 幸治
板谷 誠太
一休寿司
伊藤 雅一
岩筋 義勝
蛸名 逞
(有)大阪屋
(株)大川地建
太田 洋佑
(株)かどや
川村精肉店
カネショウ(株)
川村 政十
片山 里子
川越黄金焼店
甘栄堂
(株)角長
(株)菊池薬店
工藤 慧悟
工藤 勝人
弘南バス(株)観光部
(有)五輪商事
(株)菊富士
(株)産交
齋藤 傑
坂本 崇
佐々木 颯
佐藤 侑也
塩谷太鼓店

弘前駅津軽観光オフィス
(株)JR東日本青森商業開発 アプリーズ店
(株)青研
竹内 俊博
田中 一男
田中 多江子
田中 誠一
嶽開発(株)
(有)中弘クラフト
津軽藩ねぶた村
津軽路せんべい本舗 (株)小山せんべい店
(株)津軽カントリークラブ
(株)電気堂
東奥信用金庫
東北電業(株)
東弘電機(株)
外崎 雅敏
富田 健蔵
永井 弘幸
(株)鳴海紙店
成田 義秀
成田 笑美
成田 美樹
成田 靖
奈良岡 暁
西谷 洌
(株)西村組
写真館ハセガワ
長谷川 雅代
花正電気商会
(株)光美容化学
(有)弘前貨物
(有)弘前こぎん研究所
弘前市旅館ホテル組合
弘前建設業協会
弘前地区電気工事業協同組合
(公社)弘前観光コンベンション協会
弘前商工会議所
弘前商工会議所女性会

弘前商工会議所青年部
弘前露店商業組合
(公社)弘前青年会議所
(株)弘前公益社
弘果 弘前中央青果(株)
つがる弘前農業協同組合
弘前総合警備(株)
(公社)弘前市物産協会
(株)百姓堂本舗
ブナコ(株)
藤森 良弘
藤村機器(株)
不二やホテル (株)フジコーポレーション
藤田 千恵
北星交通(株)
(株)ホテルニューキャッスル
宝積院
福士 則和
吹田 越史
(株)松緑酒造
松山 貴子
三上 江利
(株)みちのく銀行 弘前営業部
みちのくホテル(株)
(株)南建設
宮本 奈那江
(株)ムジコ・クリエイト
(株)陸奥新報社
やまと印刷(株)
山崎 浩
(株)ラグノオささき
六花酒造(株)

(令和3年4月1日現在)



『津軽情っ張り大太鼓50周年史』にご協力いただいた方々(敬称略)

・弘前市 ・弘前商工会議所 ・陸上自衛隊 弘前駐屯地 ・(株)陸奥新報社



ごあいさつ

津軽情っ張り大太鼓保存後援会 会長 三上 千春

津軽情っ張り大太鼓は、令和2年をもちまして、復元50周年を迎えました。昭和48年に大太鼓維持のため当会を発足し、今日では100名を超える会員を擁するまでになり、復元以来順調に発展することができましたのは、ひとえに会員の皆様をはじめ関係各位の温かいご支援とご指導の賜物と、心より厚く感謝申し上げます。

昭和45年当時日本一の大きさを誇る太鼓として復元して以来、毎年のように弘前ねぶたまつりへの出陣をはじめ、市内の各イベントへ参加しており、過去にはあすなる国体開会式や全国育樹祭への出演、NHKホールや東京ドーム等への県外遠征も実施し、「弘前に情っ張り大太鼓あり」と全国にその名を轟かせてきました。

令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から弘前ねぶたまつりが2年連続で中止となり、まつりでのお披露目ができませんでした。令和2年9月に開催された「弘前城秋の大祭典」の中で「津軽情っ張り大太鼓復元50周年並びに曲打ち太鼓発足45周年記念式典」を無事開催することができました。

今回の復元50周年記念誌発行を機に、改めて、過去から現在、そして令和4年に迎える弘前ねぶたまつり文献登場300年から未来へと伝統を繋ぎ、観光都市弘前のPRと発展のため、大いに貢献して参りたいと存じております。

結びに、これからも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いし、併せて皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、挨拶と致します。



祝 辞

弘前市長 櫻田 宏

津軽情っ張り大太鼓が復元50周年という記念の年を迎え、ここに記念誌が発行されますことは誠に意義深く、心からお喜び申し上げます。

津軽情っ張り大太鼓は、昭和45年4月に復元され、以来、毎年8月に開催される弘前ねぶたまつり合同運行の先陣を切る大役を務めていただいております。津軽の熱い夏を彩るねぶたまつりを楽しみにしている市民はもとより、国内外からの観光客を勇壮な響きで魅了し続けている津軽情っ張り大太鼓は、当市の貴重な文化資源であり、世界に誇る観光資源であると考えております。

津軽人の魂の響きともいうべき荘厳な音色を奏でる津軽情っ張り大太鼓を復元され、今日まで継承されてこられた津軽情っ張り大太鼓保存後援会の皆様に対しまして、深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

結びに、津軽情っ張り大太鼓保存後援会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、あいさついたします。

津軽情っ張り大太鼓 50周年を迎えてお祝いの言葉

弘前市七夕会

顧問 福真 幸悦
会長 粟嶋 博美

津軽情っ張り大太鼓復元50周年記念誌刊行にあたり、津軽情っ張り大太鼓保存後援会の皆様共々お喜び申し上げますとともに、心からお祝い申し上げます。

当会は、お囃子をこよなく愛してやまない市職員で構成しており、昭和49年の設立以来、弘前ねぶたまつりやレッツウォークお山参詣などの地域の伝統行事への参加、当市と友好都市盟約を結ぶ北海道斜里町や群馬県太田市との交流、国内外で開催されるイベント・観光キャンペーンでの出演など、各地で活動を展開しております。

津軽情っ張り大太鼓保存後援会、とりわけ曲打ち部の皆様とは、これまで長きにわたり、「兄弟分」として活動を共にし、全国各地への遠征や友好都市との交流を通じたねぶた囃子の伝承などに努めてまいりました。近年では、情っ張り大太鼓が東京ドームに出陣した「ふるさとまつり」で共演したほか、更なる技術の研鑽を目的に、当会々員が曲打ち部の活動に参加するなど、新たな交流も生まれております。これからも様々な皆様のご縁をもって、共に当市伝統文化の保存・継承や観光PRなどに努めていければと思っております。

結びに、津軽情っ張り大太鼓保存後援会の益々のご発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。
(執筆者 粟嶋 博美)

伝統ねぶた囃子「津軽組」

顧問 伏見 要
代表 新谷 賢司

津軽情っ張り大太鼓復元50周年記念誌発行おめでとうございます。

私が初めて大太鼓を見た時、どしっと構えた大太鼓のその勇ましい姿に驚いたことを覚えています。私はその時、いつかこの大太鼓と共に「ねぶた囃子」を吹いてみたいと強く思ったのです。

そして、突然その日はやって来ました。何年前だったか記憶が定かではありませんが、その日は弘前ねぶたまつり駅前運行の日でした。大太鼓が上土手町で「戻り太鼓」を叩いているタイミングで、私は「ここだ!」と思い、大太鼓に引き寄せられるように夢中で笛を吹き始めました。すると、「誰だ! 笛吹いてるの!」物凄い剣幕で一人の男性が近づいてきました(後にそれが現曲打ち部長 田中一男氏と発覚)。てっきり怒られると思っていたら、「おめが! わがった!」と言い、笛の音がしっかり響き渡るように私の横にハンドマイクをつけてくれたのです。私が長年思い続けていた夢がついに叶った瞬間でした。あの時は夢を叶えてくれてありがとうございます。あの興奮が今の自分たちを作り上げています。

ともかく、あれほど重量感のある響音を出せるのは津軽情っ張り大太鼓しかありません。私も体が続く限り笛を吹き続けますので、共にけっばりましょう。そして、この素晴らしい伝統を次の世代へ繋いでいきましょう。復元50周年本当におめでとうございます。
(執筆者 伏見 要)

北海道斜里町 友好都市弘前ねぶた斜里保存会

会長 菊池 孝司

津軽情っ張り大太鼓復元50周年おめでとうございます。半世紀もの長い間の活動は大太鼓を支えてくださる皆さんと指導者を始めメンバー皆さんの熱意と汗の賜物と敬意を表します。祭りでは先陣を切りねぶた運行を盛り上げる様子はいつも見ても素晴らしい一言です。斜里も平成6年からしれとこ大太鼓の運行が始まりました。運行に当たっては津軽情っ張り大太鼓の皆さんの指導を頂き今日の運行に繋がっております。大変有難うございます。ねぶたまつりには皆さんの情っ張り大太鼓は無くてはならないものです。これからも益々活躍されますようご祈念致します。



北海道斜里町 友好都市弘前ねぶた斜里保存会 しれとこ大太鼓部会

部会長 佐野 三男

津軽情っ張り大太鼓が昭和45年の復元から50周年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されますこと心からお喜び申し上げます。

半世紀にわたる歴史を振り返ってこの記念誌が発刊されますことは、今日までの皆様方のたゆまぬ努力とご活躍により発展なされたことのためものと存じます。

結びに、このたびの50周年を契機に、皆様方の更なる御発展と御健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



北海道斜里町 知床流水太鼓保存会

会長 小澤 賢二

津軽情っ張り大太鼓復元50周年、おめでとうございます。私が初めて情っ張り大太鼓を見たのは今から30年ほど前の24歳の時でした。その時、衝撃を覚えました。音はもちろんのこと、全身を使ってリズムカルに太鼓を打つ姿勢に感銘を受けました。その打ち方を頭に焼き付け、斜里に戻ってから動きを真似して練習していたものです。私どもの知床流水太鼓も今年で49年。共に地域に根差した活動に励み、後進に伝えていきたいと思います。



北海道斜里町 斜里町役場ヤーヤ・ドーする会

会長 武智 良

この度は『津軽情っ張り大太鼓』復元50周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことを、心からお慶びとお祝いを申し上げます。

また、50年もの長きに亘り活動されてきました、歴代役員の方々と会員の皆さま、そしてそれを支えてこられた関係者の皆さまに対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

結びに『津軽情っ張り大太鼓保存後援会』のさらなる飛躍と、関係される皆様方のご健勝と一層のご活躍を深く祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



群馬県太田市 尾島ねぶた実行委員会太鼓会

会長 岩崎 江里子

津軽情っ張り大太鼓復元50周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。復元され、さらに50年伝統を守りながら発展を続けておられる皆様の努力と情熱はいつまでも私たちの目標です。次の10年、20年も一緒にお祝いできるような私たちが努力してまいります。今後ますますのご活躍をお祈りするとともに末永いお付き合いよろしくお願ひ致します。



津軽 情っ張り大太鼓の由来

津軽三代藩主信義公は、負けず嫌いの反骨大名、情っ張り殿様で有名でした。数々の情っ張り談がありますが、その中に「津軽の大太鼓」のエピソードがあります。

ある年、江戸城年賀の式に信義公が登城し、殿中諸公控えの間で、たまたま「加賀百万石城内の六尺大太鼓は恐らく日本一だろう」と言うのを聞き、信義公はせせら笑い、「津軽ではその程度のもは、初午（はつうま・2月最初の午の日）に小児が打ち鳴らして遊ぶ玩具のようなもので、特別取り上げるようなものではなく、城内の櫓太鼓は十尺（約3メートル）に余るものを用い居る」と大法螺を吹いたので、諸公も黙っておられず、雪解けを待ち、検使を津軽へ向かわせ実否を確かめることとなりました。

信義公も少々法螺を吹きすぎたと思いましたが、そこは「情っ張り殿様」のこと、「武士の一言金鉄の如し」と自分の領国 弘前へ早馬をやり「十尺に余る大太鼓を早々に作り櫓に備えよ」とのお達しに重臣達もびっくりしましたが、名臣 服部長門守康成（はっとり ながとのかみ やすなり）の才覚により見事に完成、太鼓の内側には無数の金の薄板を張り、太鼓を打つと、その響きは遠く新田地方（現在の青森県つがる市方面）にまで響いたと言われています。後に、検使達もこの大太鼓を見て、唖然として言葉もなく帰っていきました。

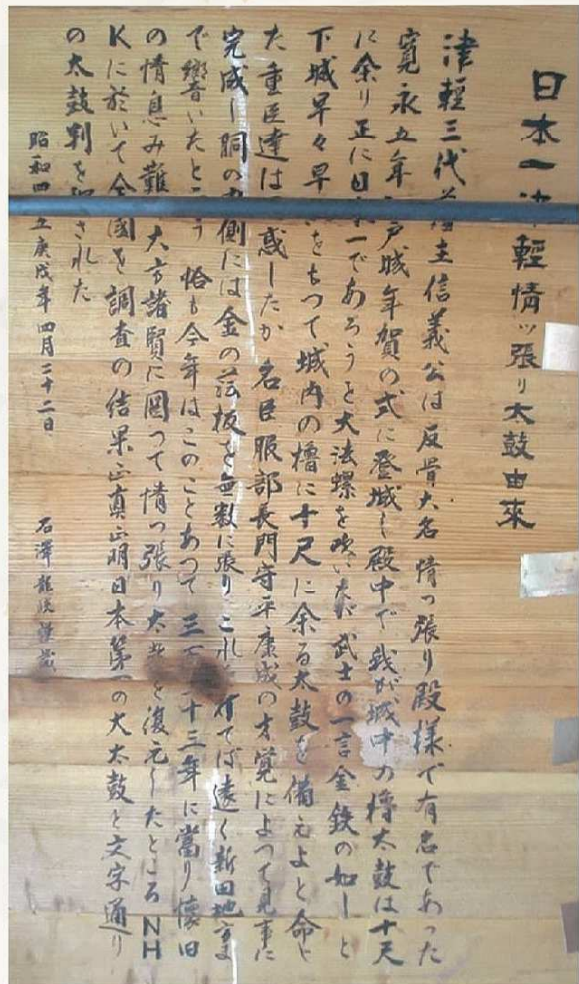
四代藩主信政公が、その大太鼓を本所（現在の東京都墨田区）二ツ目の上屋敷に運び、非常に備えましたが、その響きは墨田川を超え、江戸の街中に響き渡り、「津軽の大太鼓」とはやされ江戸の名物の一つとなりました。



真ん中が福士文知氏

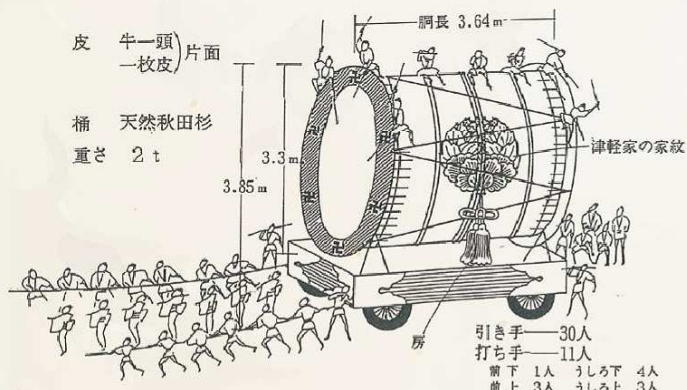
上記のエピソードを

基に、当時福士文知氏が会長であった弘前観光協会が「観光弘前の名物の一つに」と塩谷太鼓店 初代 塩谷松三郎氏に製作を依頼し復元、1970（昭和45）年4月20日に完成しました。4月22日の弘前さくらまつり幕開けとともに行われた「市中パレード」でお披露目をしたあと、弘前公園下乗橋前広場で入魂式が行われ、青森県知事、弘前市長、弘前観光協会会長、弘前商工会議所会頭、製作者の塩谷松三郎氏の5人がそろってバチを入れ大太鼓の完成を祝福しました。



石澤龍映氏が直筆で大太鼓内部に識した由来

桶胴太鼓・締太鼓 基本隊列



牡丹紋について



牡丹はもともと近衛家の紋です。牡丹は胎藏界曼荼羅（たいざうかいまんだら）の表徴で、子孫繁栄を祝福する意味を持ちます。津軽家が近衛（このえ）家からいただいた杏葉（ぎょうよう）牡丹は、菊・桐・葵（あおい）について権威がある紋章です。牡丹紋使用は公卿（くぎょう）では近衛・鷹司（たかつかさ）・難波（なんば）の3氏、武家では信濃上田の松平・伊達（だて）・津軽・島津・鍋島（なべしま）の5氏です。

弘前 ねぶたまつり

津軽情っ張り大太鼓の運行を支える「陸上自衛隊弘前駐屯地隊員」



毎年8月1日～7日まで開催される弘前ねぶたまつり。熱く短い弘前の夏を彩るこの祭典で、先陣を切って出陣しているのが津軽情っ張り大太鼓です。実は、この津軽情っ張り大太鼓は陸上自衛隊弘前駐屯地隊員が中心となって運行・演奏を行っています。

20名を超える陸上自衛隊の精鋭たちが練習を積み、本番で奏でる迫力満点の大太鼓の音は、県内外からの観光客や市民を魅了し続けています。



練習風景



出陣前準備



運行の様子

自衛隊員に協力要請をするようになったきっかけ

復元当時は、有志を募って活動していた津軽情っ張り大太鼓。会員は復元前から各ねぶた団体に所属していたこともあり、次第に人数が減少していきました。運行に協力してくれるメンバーを探していたところ、当時陸上自衛隊弘前駐屯地の隊員が地域協力の一環としてりんごの受粉作業を実施している姿を拝見し、津軽情っ張り大太鼓の運行も地域協力の一環としてご協力いただけないかと打診したのがはじまりでした。

毎年7月になると、弘前駐屯地へ自衛隊員の派遣依頼を行った後約1ヶ月の間、隊員は訓練の傍ら弘前ねぶたまつりに向け、津軽情っ張り大太鼓演奏の練習を行います。



2022年 弘前ねぶた 300年祭

文献による一番古いねぶた運行の記録は、1720年に5代藩主の信寿（のぶひさ）公が報恩寺でねぶたを高覧したというものがあります（弘前藩庁日記（御国日記））。さらに合同運行があったという文献は、1722年に織座で高覧した時のものが初めて、8町会の順番まで記載されています（同日記）。このことから、弘前ねぶた合同運行は、1722年から数えて、2022（令和4）年に300年という大きな節目の年を迎えます。

※右の資料は弘前藩庁「御国日記」享保7年（1722）7月6日（弘前市立弘前図書館蔵）



津軽情っ張り大太鼓

50年のあゆみ

1970 (昭和45年)

4月20日/津軽情っ張り大太鼓完成
4月22日/市中パレードにてお披露目を行い下乗橋にて「入魂式」
4月30日/NHK「ふるさとの歌まつり」弘前公園より生中継
7月7日/朝日テレビ「名城とふるさと」ロケに出演



陸奥新報1970年4月23日付



東照宮でのお祓いの様子



弘前市内運行の様子



市中パレードの様子



青森テレビ出演時の会員記念写真

1973 (昭和48年)

4月16日/「保存後援会」発足
8月13日/青森テレビ「奈良和モーニングショー」生中継に出演

1974 (昭和49年)

1月1日/第1回「除夜太鼓」参加
4月29日/弘前ライオンズクラブ15周年記念式典に出演

1975 (昭和50年)

5月11日/NHK「宮田輝の日本縦断」ロケに出演
6月18日/青森放送六花酒造コマーシャルに出演



宮田輝と記念写真(真ん中が宮田氏)

1976 (昭和51年)

3月6日/NHK「第1回郷土芸能の祭典」公開録画に出演。初めての県外遠征。

1979 (昭和54年)

12月31日・1月1日
第5回観光弘前瑞祥祈念除夜太鼓



陸奥新報1979年1月3日付

1978 (昭和53年)

7月12日
日本消化器外科学会総会に出演
8月28日
全国りんご荷受機関招待会に出演



国体参加の様子

1977 (昭和52年)

10月2日
第32回あすなろ国体
開会式・閉会式に出演



陸奥新報1977年10月3日付

4~5月
長谷川達温が情っ張り大太鼓にねぶた絵を描く



陸奥新報1977年4月4日付

1980 (昭和55年)

10月10日/旧官立弘高祭に出演
10月23日/東北64市長会に出演
10月11日/東京12チャンネル「初春民謡まつり」VTRロケに出演

1981 (昭和56年)

12月13日/NHK放送記念特集
「ふるさと芸能まつり」に出演(NHKホール出演2回目)

1982 (昭和57年)

5月30日/情っ張り大太鼓講習会開催



陸奥新報1982年6月1日付



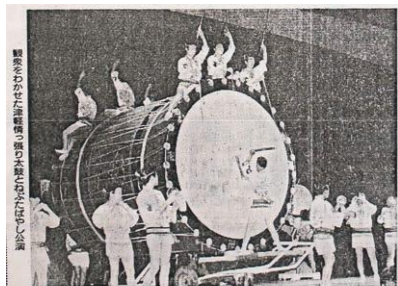
陸奥新報1977年5月16日付

1990 (平成2年)

11月24日/情っ張り大太鼓復元20周年記念式典開催(弘前文化センター)



陸奥新報1990年11月25日付



陸奥新報1986年9月13日付

1985 (昭和60年)



陸奥新報1985年5月9日付

5月19日/国際科学技術博覧会(つくば博)エキスポプラザにて、NHK総合テレビ「アイラブ地球」に出演(国内及び衛生中継により諸外国に生中継)



オール津軽・真夏のフェスティバル運行の様子

7月13日・14日
オール津軽・真夏のフェスティバル参加

5月19日

1986 (昭和61年)

9月12日・13日
第49回民俗芸能公演「日本の太鼓」に出演
東京国立劇場開場20周年記念に出演(国立劇場舞台上に2日間)

7月12日/第5回全国城下町シンポジウムに出演

9月12・13日

9月/弘前東照宮「太鼓館」改築

陸奥新報1986年8月9日付



陸奥新報1985年7月13日付

1993 (平成5年)

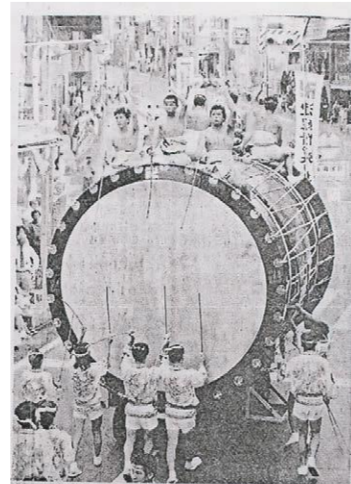
1991 (平成3年)
9月/全日本ゲートボール大会出演

1989 (昭和64年 平成元年)
4月2日/弘前市制100周年記念パレードに出演
5月28日/同記念式典に出演

1988 (昭和63年)
7月16日/西弘提灯まつり参加
8月27日/青年会議所東北大会に出演
11月3日/弘前大学学祭に出演



陸奥新報1993年11月28日付



12月5日

12月5日/全日本太鼓フェスティバル出演

1997 (平成9年)

黒石こみせまつり出演
石川町送り盆出演

9月28日
第21回全国育樹祭出演(青森市)

11月17日
シルバー記賞受賞



全国育樹祭演奏の様子



当時の皇太子ご夫妻(写真真ん中)の様子



当時の金澤市長からいただいた賞状

1998 (平成10年)
4月29日・5月2日/じよっぱれ弘前フェスティバル参加
7月19日/ふるさと大祭典参加(三内丸山遺跡)
10月17日・18日/初の名古屋へ弘前ねふた出陣
12月4日~6日/活彩あもり大祭典参加(東京ドーム)

2001 (平成13年)
4月29日・5月2日/じよっぱれ弘前フェスティバル参加

2002 (平成14年)
4月29日・5月2日/じよっぱれ弘前フェスティバル参加
6月6日/日専連全国大会出演(弘前公園市民広場)

2003 (平成15年)

4月29日・5月2日
じよっぱれ弘前フェスティバル参加
10月11日/スリーデーマーチ参加

3月1日/NHK「第3回地域伝統芸能まつり」出演(NHKホール)

8月/弘前ねふた保存会長賞受賞



9月2日に行われた授賞式の様子(弘前市立観光館多目的ホール)

2004 (平成16年)

4月29日・5月2日
じよっぱれ弘前フェスティバル参加
10月9日
スリーデーマーチ参加



津軽の意匠を具えた情っ張り大太鼓



陸奥新報2003年3月3日付

2006 (平成18年)

4月29日・5月2日 / じよっぱれ弘前フェスティバル参加
10月7日 / スリーデーマーチ参加
11月〜 / 補修のため寄金呼び掛け



陸奥新報2006年11月17日付

2007 (平成19年)

3月〜 / 大太鼓補修作業開始
4月28日・5月2日 / じよっぱれ弘前フェスティバル参加 (補修後の大太鼓で参加)
5月12日 / ツーデーマーチ参加



▲太鼓の内部には会員の氏名などが書かれている。太鼓内部に組み立てられている鉄骨は太鼓の音が大きく響くよう工夫された構造となっている。



会員達で皮部分を設置していく



補修途中の大太鼓(2007年3月)



補修後、運搬する様子(2007年4月)



2010 (平成22年)

5月8日 / ツーデーマーチ参加
11月6日・7日 / 北本まつり参加
12月 / 東北新幹線新青森駅開業記念イベントin弘前出演

2009 (平成21年)

5月9日 / ツーデーマーチ参加

2008 (平成20年)

4月29日・5月2日 / じよっぱれ弘前フェスティバル参加
5月10日 / ツーデーマーチ参加



弘前公園本丸での築城400年祭オープニングセレモニー参加の様子

2011 (平成23年)

元旦 / 観光弘前瑞祥祈念除夜太鼓開催 (弘前城400年祭オープニングセレモニー) 11月5日・6日 / 北本まつり参加

元旦



11月1日・2日 / 北本まつりへ参加



あomorい10市大祭典inひろさきの様子

9月13~15日

9月13日~15日 / あomorい10市大祭典inひろさき参加

5月5日

5月5日 / 初めて津軽五大民謡全国大会へ出演



弘前市民会館の改修工事により、大太鼓の搬入が可能となりこの年初めて弘前市民会館の舞台上に登場した。

2014 (平成26年)

2013 (平成25年)

5月11日・12日 / ツーデーマーチ参加

2012 (平成24年)

11月10日・11日 / 北本まつり参加

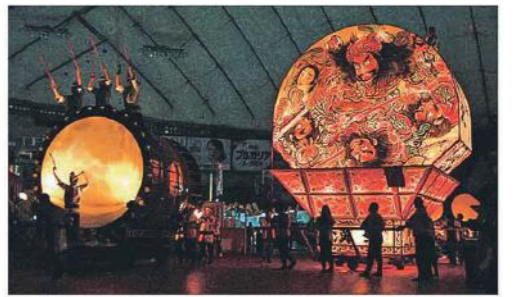
10月18日

10月18日 / 弘前東照宮敷地売却に伴い保管場所を山車展示館へ移動

5月9日・10日 / ツーデーマーチ参加



弘前市笹森町東照宮解体の様子



東京ドームにねふた勇姿

きょうから「ふるさと祭り」
「ふるさと祭り東京2012」の様子(東京ドーム)

陸奥新報2012年1月7日付

1月7~15日

1月7日~15日 / 「ふるさとまつり東京2012」参加(東京ドーム)



「ふるさとまつり東京2012」の様子(東京ドーム)

(山崎秋)

2016 (平成28年)

5月14日・15日 / ツーデーマーチ参加
7月22日・23日 / しれとこ斜里ねふた参加



曳屋ウィークイベントの様子(弘前公園本丸)

9月20~27日

弘前城石垣修理に伴う曳屋ウィークイベント参加

2017 (平成29年)



東京ドームで開催された「ふるさとまつり東京2017」の様子(東京ドーム)



おもてなしプロジェクト弘前での津軽剛情張大太鼓と津軽情っ張り大太鼓の競演の様子

2019 (平成31年・令和元年)



路地裏歌謡笑出演の様子



津軽情っ張り太鼓曲打ち部 部長

田中 一男

復元50周年を迎えて

「大太鼓、後は頼んだぞ」この言葉は、大太鼓を復元する際に中心となってご尽力いただいた福士文知先生(復元当時:弘前観光協会 会長)から生前に頂いた言葉です。この50年大変な事もありましたが、太鼓が好きな気持ちと福士先生から頂いたこの言葉でここまでたどってきた印象です。今振り返ると、我ながら半世紀もよくやってきたなと思います。

50年前、当時私が所属していた消防団の仲間と津軽のモチケを出し「よし、やってみるが!」と団結したのが始まりでした。弘前ねぶたまつりでは先陣を切ることになり、当初多くの有志で運行していたものの、皆情っ張り大太鼓以前にそれぞれ所属しているねぶた団体等があり、大太鼓だけに専念して活動できるメンバーが私以外にほとんどいない状況でした。次第に叩き手も減っていき、続けていけるか不安な時もありましたが、陸上自衛隊弘前駐屯地の隊員の皆様に引き手、叩き手ともにご協力いただけることになり、今日まで津軽情っ張り大太鼓の伝統が続いている訳であります。

今回このように復元50周年を迎える事が出来たのは、弘前市、弘前観光コンベンション協会、陸上自衛隊弘前駐屯地その他関係各位の格段のご指導とご協力の賜物と深く感謝致し、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

私共は「津軽情っ張り大太鼓」をこれからも守り続け、この機会に更に精進を重ねていきたいと考えております。今後益々のご指導ご鞭撻を伏してお願い申し上げ、挨拶と致します。

2020 (令和2年)

9月20日/津軽情っ張り大太鼓復元50周年記念式典開催



9月20日弘前公園での記念式典の様子(四の丸)



津軽情っ張り大太鼓復元50周年 大祭典で節目の祝奏
弘前

毎年、弘前ねぶたまつりで先頭を飾り、勇壮な音を響かせる「津軽情っ張り大太鼓」が復元から50周年を迎えた。大太鼓の持ち運びが難しいことから誕生した「曲打ち太鼓」も発足した。45周年となる20日、弘前公園の丸で記念式典を行い、関係者が節目を祝っている。

津軽情っ張り大太鼓は直径3.3m、重量3トンの迫力満点の大太鼓。制作当時は祭りに出陣する最も大きい太鼓として注目され、50周年を迎えた今もなお、祭りの先陣を切る大太鼓として多くの市民に親しまれている。



曲打ち太鼓は大太鼓があまりにも大きく、持ち運びが難しいことから誕生。津軽情っ張り大太鼓保存会後援会の有志でつくった津軽情っ張り大太鼓曲打ち部が、市内内外のイベントに活躍の場を広げている。

式典では主催者を代表して保存後援会の三上春会会長、来賓の牧田宏市長が挨拶をしたが、大祭典で出陣でき、「こんなうれしいことはない」と笑顔を見せた。(成田真由美)

陸奥新報2020年9月21日付

津軽情っ張り大太鼓復元50周年・曲打ち太鼓発足45周年 記念祝賀会の様子(於:ホテルニューキャッスル)

